

伊仙町誌編纂基本計画

1. 策定の趣旨

この計画は、令和4年で伊仙町町政施行 60 周年を迎える本町において、前回刊行より 43 年経過している伊仙町誌の改訂、追録及び関係資料、データの編纂を行うに当たり、令和版伊仙町誌編纂の方向性を示すために策定する。

2. 令和版伊仙町誌編纂の目的

- (1) 伊仙町の過去から現在における変遷を忠実に記録し、幅広い見地から本町の位置付けを明らかにする。
- (2) 貴重な文献資料やデータを広く公にすることで、住民、出身者、その子孫にまで、歴史と伝統に根付いた本町の在り様を継承し、地域の誇りを高める。
- (3) 伊仙町の自然や史実、伝統文化を改めて見直し、将来進むべき方向の礎とする。
- (4) 伊仙町に関する有形、無形の歴史的、学術的、また行政資料を整理、保存、管理することで、未来のまちづくりへ生かす。
- (5) 編纂過程での資料提供、聞き取り、グループ学習など住民の関与を高めることで、過去の記憶と未来をつなぎ、集落の活力源とする。

3. 町誌編纂の基本方針

令和版伊仙町誌は、以下の基本方針に基づき編纂する。

- 昭和 53 年刊行「伊仙町誌」の復刻を行う。
- 他自治体と比較し伊仙町の地域性、歴史、文化特性を際立たせる構成とする。
- 前町誌をはじめ、これまでの町内外の研究成果を検証し、最新の知見を盛り込む。
- 権力者による歴史観に偏らず、生活者として町民の視点からの編纂を心掛ける。
- 広く住民や出身者、関係者に親しまれ、将来のまちづくりや生涯学習、地域教育の現場で活用されるデータの礎となる町誌を作る。
- 写真や図版を多く取り入れ、インターネットでの配信、データのアーカイブ化、歴史民俗資料館ホームページとの相乗りを視野に入れ、紙媒体以外の情報発信に力を入れる。
- 政治、経済、行政史に偏りすぎず、地域に生きた人々の視点を一つの軸と置く。
- 歴史資料は、町内外から広く収集し、有形のものだけでなく、伝承など無形のものも配慮して収集する。
- 各分野における執筆は、専門的かつ学術的水準を保ちながら、平易な文章で読みやすい表現を心掛ける。
- 編纂過程で調査、収集した資料やデータは、編纂事業終了後も広く住民へ公開し、その活用方法を確立する。
- 定期的に「伊仙町誌便り」を発刊し、進捗の報告や情報提供の呼びかけなどを行う

4. 伊仙町誌の特徴

伊仙町は古くから現代まで歴史、文化、地域的特性が際立つ町であり、その特徴を主軸に表現する。また、生活者としての住民の視点にも重きを置く。

- ジャンル横断、融合型の執筆構成
- 集落聞き取り調査への各集落民の参画
- 聞き取りを通じて、若者や若手職員研修の一環
- 郷友会への初期段階からの情報発信と協力依頼
- 高齢者への聞き取り過程での多世代の関与と高齢者福祉の視点
- 島口の保存も含め、個人史や生活史を町史の一部と捉え、語りの動画記録
- 動画配信を含めた、デジタルデータの活用

5. 町誌の内容

町誌本編の時代区分は、次の通りとし、編纂区分は審議会にて決定する。

年代	奄美・沖縄諸島時代区分	本土時代区分	編
28000	旧石器時代	旧石器時代	
8000		縄文時代草創期	
B.C. 5000	貝塚時代	縄文時代早期～晩期	
A.D.		弥生時代	
		古墳時代	
		飛鳥時代	
		奈良時代	
		平安時代	
1000			
1400	グスク時代	鎌倉時代	
1500	琉球王国統治時代	室町時代 安土桃山時代	
1600	薩摩藩統治時代	江戸時代	
1900	鹿児島県時代	明治時代 大正時代	
	アメリカ統治時代	昭和時代	
2000	日本復帰 鹿児島県	昭和時代 平成時代 令和時代	

6. 町誌編纂の期間及び刊行計画

- 町誌編纂期間は、令和3年度から令和6年度を目途とする。
- 本編の刊行計画は、別に定める。

7. 頒布方法

町誌本体の頒布に当たっては、希望者が購入しやすい価格設定、手段となるよう努める。本冊とそれ以外のデータ、動画配信、副読本などの部数や時期は別に定める。またデジタルデータに関しては、ある程度まとまった段階で逐次更新し、歴史民俗資料館ホームページ内にて展開する。

8. 付帯事業（本体刊行後）

- 徳之島独自の自然、文化、人を扱った一般向け副読本「徳之島学」を出版し、その活用方法を確立する。これにより、伊仙町で生まれ育つ子供を中心に人材育成の一助とする。
- 歴史民俗資料館と提携し、集落歩き講座の開催など、町の歴史、自然に関心が持てる企画を実施し、その中で新たな町史研究者の発掘、育成を図っていく。

9. 編集組織及び推進体制

<町誌編集審議会>

町長の諮問に応じて、町誌編集事業基本計画・編集事業計画策定や編集進捗状況など、重要事項についての審議決定し、意見を具申。

伊仙町誌編集審議会 委員			
No.	委員氏名	所 属 等	備 考
1	石上 英一	東京大学名誉教授	委員長
2	幸田 順一郎	伊仙町教育長	R6.9.17～
3	永喜 久一	元鹿児島県立博物館長	
4	小野寺 浩	鹿児島大学客員教授	副委員長
5	寶永 英樹	伊仙町総務課長	R6.1.1～
6	野島 幸一郎	伊仙町未来創生課長	R6.7.1～
7	高宮 広土	元鹿児島大学国際島嶼教育研究センター 教授	
8	津波 高志	琉球大学名誉教授	
9	徳永 武彦	町内学識者	辞任
10	中富 譲治	伊仙町社会教育課長	R4.6.14～
11	西村 明	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授	
12	服部 正策	奄美大島自然保護協議会 顧問	
13	福島 幸宏	慶応義塾大学文学部准教授	
14	義岡 明雄	徳之島三町文化財保護審議委員会連絡協議会会長	
15	四本 延宏	奄美群島文化財保護対策連絡協議会 会長	副委員長

<町誌編集委員会>

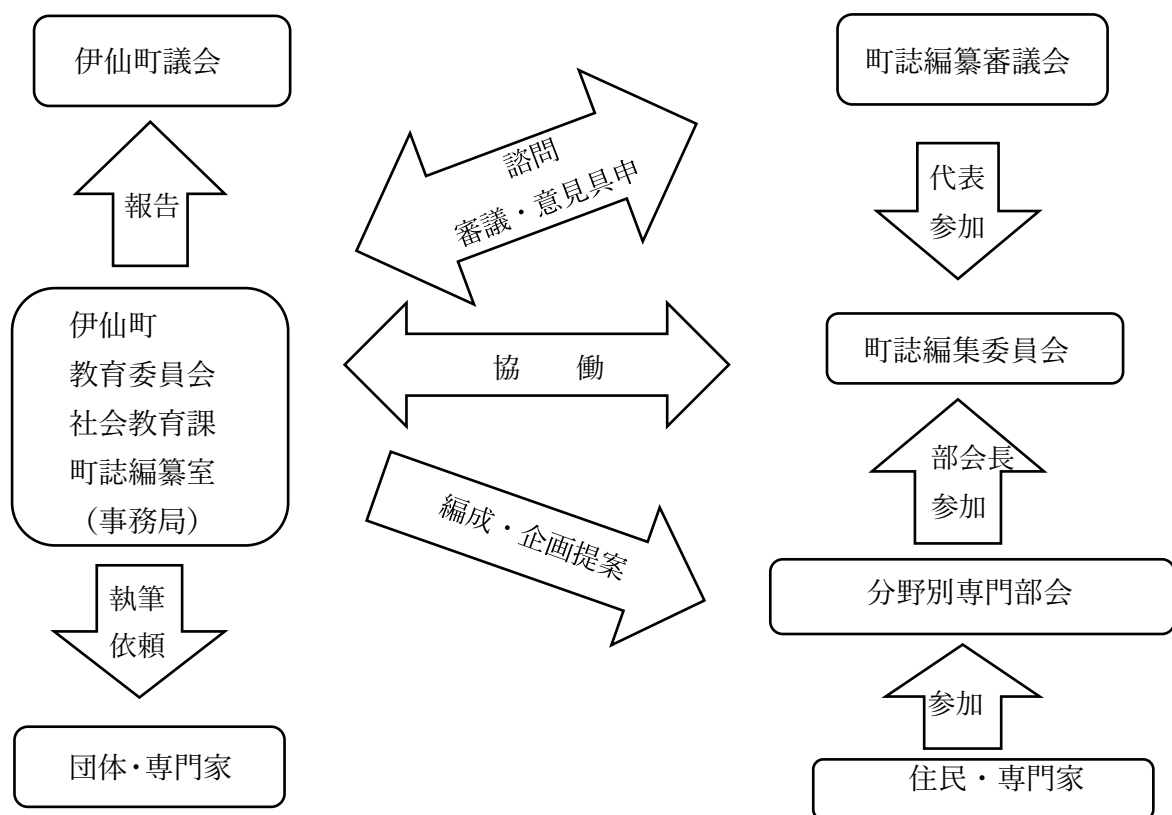
町誌編纂審議会代表者、及び専門部会長、その他メンバーで構成し、具体的な編集方針や内容など、町誌編集に関する専門的かつ具体的事項について協議。

<専門部会>

編集委員会の下に組織し、調査員や実務者などにより構成されるチーム。分担執筆を行う

<事務局(町誌編纂室)>

事務局は、「伊仙町誌編纂室」とし、令和3年4月1日より伊仙町教育委員会社会教育課伊仙町民俗資料館内に設置する。人員体制としては、室長：1名、書き起こし・校正係：1名、動画・デザイン担当1名、資料収集専門員1名、地域集落聞き取り専門員1名の配置を予定。



10. 町史編纂終了後の資料の活用

本事業を通じて集積された資料とデータは、適切に整理、保存、公開していくために、歴史民俗資料館並びに図書館との相互補完的資料管理体制を確立する。また、町民の財産でもある公文書の保存方法も新庁舎建設のタイミングに合わせて確立し、管轄部署を明確にする。

本事業の大きな特徴として、今を生きる個人の生活史を拾い上げることで、町史の一部を構成すること、また動画での記録と発信を含めるため、個人のプライバシーに考慮したうえで、一人でも多くの町民の参加を促しつつ、半永久的に残るそのデータの扱いに十分留意し、視聴者、読者層を広げる努力を続ける。